

# 明日を支える 道総研 建築研究本部

## 研究・活動報告 ①



開拓とともに北海道に持ち込まれた住宅・建築技術は、厳しい寒さや雪への対応、そして災害や時代への対応などから、極めて短期間に独自の進化を遂げてきました。このような大きな変化は我が国、そして世界の住宅・建築史のなかでも特筆すべき出来事といえます。そしてさらに特徴的なことは、これらの変化は、産学官と道民が一体となって生みだしてきたもの

建築研究本部長兼北方建築総合研究所長

鈴木 大隆

であるという点です。この広い大地で協働で取り組む新たな価値づくりこそ、自由・独立の精神に基づき北海道の力、これからの大切にしていくべきものです。いまから65年前、プロック指導所、そして北海道立寒地建築研究所としてスタートした北方建築総合研究所は、8年前に22の道立試験研究機関とともに独立行政法人化し、北海道立総合研究機構建築研究本部として生まれ変わりましたが、この間、技術開発、政策研究、そして第三者評価などを通じて、北海道・我が国の寒冷地建築とまちづくり

に長く貢献してきました。

## 50年後のふるさと創りを目指して



いま北海道、日本は、過去に経験したことのない人口減少や環境問題などに直面しており、私たちの暮らし・社会・価値観・産業は激しい変化の時代にあります。その変化のなかで、暮らしと産業を支える建築・都市は大きく変わらなくてはならない時期にきています。それが見方を変えれば、これまでの見直し、真の北海道の住環境向上や住宅・建築関連産業の発展を支えてきた北方建築総合研究所

豊かさを表現できるまぶつくりに向けた協働の大きな機会ともいえまっかけが生まれればと強く願っております。

「住宅から一般建築、そして産業施設へ、単体から建築群として地域・都市へ」と、これまでの蓄積を活かしながら新たな領域へ、私たちの挑戦がはじまっています。次回からは、私たちが取り組んでいる研究や活動の一端を皆様にご紹介させていただきます。この連載から、私たちの「いま」を程、何卒、よろしくお願知って頂くとともに、皆さまと新たな建築・まち(10回連載します)

### 札幌で18日に成果報告会

建築研究本部では、旭川と札幌において隔年で研究成果報告会を開催しており、今年10月18日に札幌サンプラザで開催します。当日は、最近の代表的な研究成果を報告することにも、後半では「建築・まちづくり研究のこれから」をご来場の皆さまと職員で討論する新たな試みを行いますので、是非、ご参加いただければと思います。